

# 令和3年度(2021年度)第1回 吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議議事録

1 開催日時:2月24日(木)～3月7日(月)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、書面開催として実施。

2 開催方法:吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議設置要領 第2条 検討事項 に基づきアンケートを作成し、各委員に意見を求め、回答を集約。

3 意見提出者

委員 18名

荒木 大輔	木村 匡志	岡本 公助	国本 光弘	山根 正紀	湊崎 雄作
佐々木 康雄	勝田 宣孝	橋本 周平	小松 睦	矢野 哲也	大中 勇
豊留 由美子	高見 智洋子	東條 カオリ	松尾 真由美	大谷 三千葉	本郷 理奈

4 資料 吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議設置要領

資料1

令和2年度 こどもプラザ事業「太陽の広場・地域の学校」実施結果

資料2

こどもプラザ事業「太陽の広場・地域の学校」けが報告

資料3

コロナ禍における子供の放課後の居場所について

資料4

こどもプラザ事業「太陽の広場」参加人数比較表

資料5

教育コミュニティ紙「北東西南」NEWS2021

資料6

5 議事(アンケート)事項

1. アンケート内容(検討事項(1)～(7)について自由記述式)

※吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議設置要領参照 (検討内容) 第2条

(1) こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の具体的な連携に関する事項・活動での連携

(2) 活動プログラムの企画、充実に関する事項

(3) 安全管理に関する事項

(4) ボランティア等の地域の協力者の人材確保に関する事項

(5) 広報活動に関する事項

(6) こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室の新・放課後子ども総合プランで連携実施後の検証・評価に関する事項

(7) その他新・放課後子ども総合プランの推進に関する事項

2. その他、アンケート内容以外で、子供たちの居場所づくりについて情報提供していただける内容があればお書きください。(自由記述)

6 議事録

今年度の(業務・活動)実施状況

	回答内容	
1	<p><b>1 教育課程・学校管理下の活動について</b></p> <p><b>(1) 放課後の時間の考え方</b></p> <p>不審者や、連れ去り事案など、子供を取り巻く社会環境が変化したことにより、子供が放課後自由に残って遊び、好きな時間に家に帰るといように過ごすことが難しくなっている。</p> <p>そのような現状の中、学校では、放課後学習などのために下校時間まで児童を留め置</p>	学校教育室

	<p>く場合は必ず保護者に連絡をし、御理解を得ている。</p> <p>ましてや、太陽の広場は学校管理下の活動ではなく、学校の施設を利用して地域や保護者、保護者 OB の方の協力により成り立っている見守りの事業だということを踏まえ、保護者の方々の理解と協力が一層必要であると感じている。</p> <p><b>(2) タブレットの活用について</b></p> <p>タブレットの活用については、文房具の一つであるという考え方のもと使用している。よって、学習をする際、宿題をする際にあたりまえのように児童が使用している。但し、オンラインで使用する際には、Wi-Fi の環境が必要となることや、破損の際の対応などの点については、教育センターと一緒に進めていこうと考えている。</p> <p><b>2 感染対策について(まん延防止等重点措置期間、緊急事態宣言発令期間)</b></p> <p><b>(1) 授業について</b></p> <p>感染リスクの高い活動は行っていない。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【制限する教育活動等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・密集又は近距離で対面形式となる活動等(ペア・グループ活動)は行っていない。</li> <li>(意見交流時に積極的に学習用端末を利用する等工夫している。)</li> <li>・近距離で一斉に大きな声で話す活動</li> </ul> <p>例) *理科:グループでの実験や観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*音楽:リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管弦楽器演奏</li> <li>*体育:密集する運動や、近距離で組み合ったり接触したりする運動</li> <li>*家庭:調理実習</li> <li>*外国語:ペアやグループとなってコミュニケーションをとる活動</li> <li>*図工・美術:共同制作活動</li> </ul> </div> <p>※持久走などの呼吸が激しくなるような運動により児童・生徒の呼吸が苦しい様子が見られる場合は、マスクを外し、児童・生徒のお互いの距離を十分確保している。</p> <p>※合唱については、常時換気、マスク着用を原則とし、身体的距離(できるだけ2m、最低1m)を確保している。</p> <p><b>(2) 「学校行事」について</b></p> <p>一般的な学校行事に加え、体育館での全校集会、学校・学年単位の出前授業や講演会等、児童・生徒が、学級の範囲を超えて一堂に会し活動するものを想定している。普通教室に 40 人以上がいるような密な状態で実施することのないよう、マスクの着用、手洗い、換気等の感染対策を徹底したうえで実施している。</p> <p><b>(3) 保護者の来校について</b></p> <p>来校者については、万が一感染者が確認された時に備え、校内での動線を確認できるよう配慮をお願いしている。授業参観については、やむなく実施する場合、密になる状態を避けるために来校者を分散させる、参観時間の短縮等、その方法について十分な検討をお願いしている。</p>	
2	<p><b>1 今後の児童数推移状況</b></p> <p>今後、住宅開発等による人口増加が続くと見込んでおり、市全体としては、令和8・9年あたりまで児童生徒数が増加し、その後ピークアウトすると見込んでいる。</p> <p>ただし、局所的な大規模住宅開発が想定されることから、学校によっては、児童生徒数が一時的に急激に増加することが考えられる。例えば、府営住宅跡地の活用地や弘済院跡地など、計数十万平米の開発が想定されている。</p> <p><b>2 教職員定数の標準に関する法律の一部改正に伴う学級編成及び教室の確保の状態や適正規模、貸室状況などについて</b></p> <p>児童生徒数の増加とともに、義務標準法の改正による 35 人学級編成により、過大規模校の問題や教室不足が発生し、教室不足については、太陽の広場や放課後子ども育成室にも影響を与えており、今後数年間は厳しい状況が続くと見ている。</p> <p>また、支援学級の児童生徒数も増加しており、支援学級のスペースが新たに必要なこと、通級学級の更なる設置の動きがあり、そのスペースが必要なことも課題である。</p> <p>現在教育政策室において学校規模適正化を進めており、令和6年度に市内の小中学校</p>	教育政策室

	<p>の規模を平準化することで、一定の課題の解決は図れるが、元々の保有教室数が多い学校においては、教室不足が引き続き発生し、学童棟の増築等が必要となることも想定できるので、関係所管と連携して協議が必要かと思う。</p>										
3	<p><b>1 今年度の児童館・児童センターの運営について</b></p> <p>(1) 緊急事態宣言下(令和3年5月10日～令和3年6月20日)の対応で全館を閉館。</p> <p>① 館には一日当たり2名の職員を配置し、電話相談、業者対応、女性用グッズの配布(生理用品等)を実施。</p> <p>② 市内児童館の職員を新型コロナウイルスワクチンの職域接種対象者とする事で、人員体制が整わない公立保育園や公立幼稚園に職員を派遣し、児童部内の施設体制確保に努めた。</p> <p>(2) 年間行事の「館まつり」は全館で中止。</p> <p>(3) 児童館運営委員会も書面開催を基本として、3密対策を徹底した。</p> <p><b>2 利用の状況について</b> (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延べ利用者数</th> <th>1日1館当たり平均利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>112,047</td> <td>26.1</td> </tr> <tr> <td>令和元年度(コロナ禍前)</td> <td>290,538</td> <td>56.2</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>3 感染防止対策などについて</b></p> <p>(1) 消毒について</p> <p>① 午前中の幼児教室終了時に館内や利用したおもちゃをくまなく消毒。</p> <p>② 閉館間際に子供たちが帰った後に館内や利用したおもちゃをくまなく消毒。</p> <p>(2) 3密対策について</p> <p>① 小学生は不織布マスクの着用徹底。</p> <p>② 幼児教室は一組ずつ3mの間隔をとることを徹底。</p> <p>③ ランチタイムは取り止め(館内での飲食禁止)</p>	年度	延べ利用者数	1日1館当たり平均利用者数	令和3年度	112,047	26.1	令和元年度(コロナ禍前)	290,538	56.2	子育て政策室
年度	延べ利用者数	1日1館当たり平均利用者数									
令和3年度	112,047	26.1									
令和元年度(コロナ禍前)	290,538	56.2									
3	<p><b>1 コロナ禍における学校の取組等の工夫や課題及び感染対策について</b></p> <p>コロナ禍では、国、府、市からの感染防止等の方策に基づき、学校の教育活動については対策を講じて実施しているが、密を防ぐことが困難であったり、近距離での活動等は中止を余儀なくされている。また、学校の規模、人数、教室配置などで各校の状況が異なるため、それぞれの学校で検討し、判断をしている。</p> <p>感染防止対策による取組みの工夫の一例として、集合形式での全校朝会は、人と人の接触機会を減らすために実施していないが、①放送での全校朝会 ②作成したVTRを流す形式の児童朝会 ③校長室と各教室をオンラインで結んで行う全校朝会、児童朝会を内容に応じて行っている。</p> <p><b>2 こどもプラザ事業(子供たちの居場所)の開催や連携等について</b></p> <p>このコロナ禍での太陽の広場の開催については、</p> <p>① 見守っていただいているフレンドさんの感染を防ぐ。</p> <p>② 児童への感染を防ぐ。</p> <p>以上2点に気をつけて進める必要がある。各校の事情により、開催できるところとできないところがある。</p> <p>今年度、感染状況が収まってきた秋頃に、フレンドさん、学校、青少年室、留守家庭児童育成室の4者で連絡会議を開催した。本校は小規模校であるため、児童が部屋にいる時間を短縮する、外遊びを中心に活動する、など、感染対策を十分とることができることを確認したうえで太陽の広場を開催することとした。このように今後も連携しながら、状況に応じて子どもたちのためにできることを進めていきたいと思っている。</p> <p><b>3 地域ボランティア確保の実情について</b></p> <p>本校では、現在4名のフレンドさんに協力いただいているが、今後のことを考えると、フレンド確保について話していく必要はあると感じている。</p>	小学校									
4	<p><b>1 コロナ禍における学校の取組等の工夫や課題及び感染対策について</b></p> <p>朝の検温、マスク着用、手指消毒、教室の換気を行った。行事についても、可能な範囲で実施した。感染症対策に準ずる対応は、校長が各担任とともに、常に校内を巡回し不備がないか、チェックした。学校だより、学年だより、学級だより及びミマモルメにて繰り返し</p>	小学校									

	<p>返し感染対策の呼びかけを行い、とりわけ体調不良や家族に発熱や風邪症状がある場合は、登校を見合わせてもらうことを徹底した。それにより保護者の意識も高まり少しでも異変がある時は登校を自粛してくれるようになった。</p> <p>3学期に入って、オミクロン株の流行に伴い家族の感染、発熱により本人は元気で出勤出来ないなど、教諭の休みが増えたことが大きな課題となる。現在も週替わりで平均3名の教諭が欠勤している。オンラインを活用することで人的不足を補っている。</p> <p><b>2 こどもプラザ事業(子供たちの居場所)の開催や連携等について</b>      コロナの影響により、太陽の広場がほとんど開催できなかったのが、残念でならない。学校としては、太陽の広場だけでなく留守家庭児童育成室とも連携をとりながら、運動場の有効活用を検討していきたいと考えている。</p> <p><b>3 地域ボランティア確保の実情について</b>      コロナ禍で、会議等がほとんど実施出来ず、十分に把握しきれていない現状である。改めてボランティアの方々と連携し且つPTA 役員 OBの方々のボランティア参画も依頼していきたい。</p>	
5	<p><b>1 アンケート内容</b></p> <p><b>(1)こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の具体的な連携に関する事項・活動での連携</b>      今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、太陽の広場自体の開催時期が遅れや実施時の人数を制限する必要があるなど、さまざまに制約があった。その中で、留守家庭児童育成室在籍児童の太陽の広場参加形態(時間、場所)について、太陽の広場担当者と事前に現場の指導員で打合せを行い、混乱が生じないようにしてもらい、大変ありがたかった。</p> <p><b>(2)活動プログラムの企画、充実に関する事項</b>      実施できなかった。</p> <p><b>(3)安全管理に関する事項</b>      今年度は、ケガや児童間トラブルで大きなものは報告が上がっていない。一緒に活動する機会が少なかったことが影響したと考えられる。      留守家庭児童育成室では、今年度、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを変異株の流行により、2度改訂版を出し、感染症対策を強化してきた。その内容については、太陽の広場担当者へ情報共有してきた。      感染症対策強化の主なポイント以下が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黙食、黙飲の徹底</li> <li>・マスクコントロールの徹底</li> <li>・室内における換気の徹底</li> <li>・クラス間の交流(行き来も含めて)の制限</li> </ul> <p><b>(4)ボランティア等の地域の協力者の人材確保に関する事項</b></p> <p><b>(5)広報活動に関する事項</b></p> <p><b>(6)こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の新・放課後子ども総合プランで連携実施後の検証・評価に関する事項</b>      児童の出欠確認を確実に行うという点から、留守家庭児童育成室在籍児童が太陽の広場へ参加する時は、育成室を欠席し、太陽の広場に参加した後は帰宅するとしている育成室が複数ある。      育成室の保護者アンケートからは、太陽の広場に参加する時も、育成室を利用したいとの要望もあることから、太陽の広場への参加について、育成室を欠席して参加させることのメリット、デメリットを検討し、市内で統一した対応にできることが望ましいと考えている。</p> <p><b>(7)その他新・放課後子ども総合プランの推進に関する事項</b>      令和4年度から留守家庭児童育成室で待機児童が出始めており、子供たちの居場所について今後さらに検討する必要がある。</p>	放課後 子ども育成室
6	<p><b>1 コロナ禍の中での活動(行事や会議等)についての工夫や見直し等について</b></p> <p><b>(1)行事については、中止及び縮小したものが多かった。</b></p>	吹田市 PTA協議会

	<p><b>学校行事</b> 運動会は5月、6月に予定していた学校も秋に延期し、運動会ではなく体育参観として実施した学校もあった。 卒業式は市内全小学校で各家庭保護者1名のみの参加で行い、音楽会も同様に来校者数を制限した学校もあった。</p> <p><b>地域行事</b> 校庭を使用して行う盆踊り等の夏祭りやゲーム等の催しはほとんどが中止となった。 市内一斉パトロールも規模を縮小しての開催が多かった。</p> <p>(2)課題として、例年行っていたことが出来ていないため引継ぎがしっかりできない内容がある。</p> <p><b>会議</b> オンラインの活用が増えた。 各ブロック会議、各部会においてもオンライン会議が増え、市PTA 協議会では会場とオンラインの併用も行った。</p> <p>2 子供たちの居場所について市PTA として感じられたことや、検討事案がございましたらご教示ください。 子供が学校にいることは保護者にとって安心感につながる。感染拡大防止対策とはいえ放課後の太陽の広場や土曜日に行っている学校開放の場がなくなるというのは辛いという声も聞いている。できる限り子供が活動出来る場の提供をお願いしたい。</p>	
7	<p><b>1 アンケート内容</b></p> <p>(1)こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の具体的な連携に関する事項・活動での連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止の目的で活動時間を2時間に短縮したため、留守家庭児童育成室の子供たちと交流できる時間が著しく減少した。</li> <li>・太陽の広場の開催時の参加児童数が100名を超える学校や、留守家庭児童育成室の子供たちと活動時間を分けにくい学校については、太陽の広場を分散開催し、密を避けるようにした。</li> <li>・定期的(月1回)に連絡会議を開催し、学校、留守家庭児童育成室、太陽の広場の状況や子供たちの様子を交流したうえで、感染防止対策や活動内容、活動方法などの確認をした。</li> <li>・各校の状況に合わせて、手洗い・手指消毒など、感染防止対策を講じたが、学校によっては手洗いから活動へ移行する動線の設定が難しい広場があり、手洗いをさせる工夫が必要だった。</li> <li>・合同避難訓練(地震・火災)を書面で開催し、子供の動きとともに大人の動きや留意点などを確認した。</li> </ul> <p>(2)活動プログラムの企画、充実に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の学校で「室外での活動プログラム」を実施した。</li> </ul> <p>(3)安全管理に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策として、手洗いの徹底を心がけた。</li> <li>・共用のものについては、使用後にアルコール消毒を実施した。</li> <li>・感染防止対策として、開始時期を遅らせたり、活動時間や内容等に制限を設けるなどして実施した。</li> <li>・活動の場が少なくなっていることから子供たちのけがが増加傾向にある。また、コミュニケーション能力も減少してきているとの学校からの指摘があり、巡回時、けがやトラブルがないよう声かけをし、注意を促した。</li> </ul> <p>(4)ボランティア等の地域の協力者の人材確保に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者中心のフレンドが見守る太陽の広場はコロナ禍でも開催や新規のフレンドの登録にも前向きであった。</li> <li>・フレンドの中には、感染への不安が高い方もおられるので活動すること自体から話し合う必要があった。</li> <li>・放課後の子供の居場所については社会的にも保護者からもニーズが高くなっている</li> </ul>	こどもプラザ 運営指導員

	<p>現状を考えると、人材確保は常に課題としてあり、世代交代していく必要がある。高齢者のフレンドが多い広場を今後どのように次の世代につなげていくかについては、フレンド募集のチラシを地域や学校に広く配付する等、啓発していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保に苦慮している広場については、いかに保護者を巻き込んでいけるかも重要になってくると思うので、学校と連携して保護者の理解を進めることや、実際にフレンドとして参加してもらえるような手立てを考える必要がある。</li> </ul> <p><b>(5) 広報活動に関する事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年室から太陽の広場開催について、開催日時や活動上の注意点、感染防止対策、などをチラシにまとめ配付した。</li> <li>また、フレンド募集が必要な太陽の広場についてもチラシを作成し児童を通じて配付した。</li> <li>・学校だよりでは、開催日時や開催するうえでの注意点などを掲載してもらい、学校メールでは雨天中止や開催に関する情報等を発信してもらった。</li> <li>・受付場所に感染防止対策の内容をポスターにして、掲示した。</li> <li>・PTA 新聞でコロナ禍での太陽の広場の活動を紹介してもらった。</li> </ul> <p><b>(6) こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の新・放課後子ども総合プランで連携実施後の検証・評価に関する事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、コロナ禍で太陽の広場の開催回数が少なくなり、密を避けるという感染防止対策の観点から留守家庭児童育成室と連携して活動することが少なかったが、放課後の居場所の充実を考えると、コロナ禍であっても連携して実施できる方法を考え、次年度に向けて工夫して活動できるようにしたい。</li> </ul> <p><b>(7) その他新・放課後子ども総合プランの推進に関する事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来子供たちは自由な、様々な活動の中で異学年の子供たちとも交流しながら、遊びのルールを身につけたり、コミュニケーション力を養ったりしている。</li> <li>コロナ禍で、学校においても教育活動が制限を受けている現状があり、基本的には学校の教育活動に準ずることが必要であるが、次年度は少しでも活動内容の充実を図っていきたい。</li> </ul>	
8	<p><b>1 アンケート内容</b></p> <p><b>(1) こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の具体的な連携に関する事項・活動での連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会議を通じて、現状や課題、遊具の使い方等を確認し、情報や約束事などを共有することでスムーズに見守りや支援などができている。</li> <li>・感染対策として、参加人数が多い学校では、留守家庭児童育成室と互いの活動時間帯や活動場所を分けるなどの調整をし、密を避けた。</li> <li>また、活動時間の短縮、活動場所を運動場中心とした。</li> <li>参加人数の少ない学校では、活動場所や時間帯を分けずに行ったが、問題はなく、連携も深まったと感じる。</li> <li>・留守家庭児童育成室と学童祭り等の室内での交流がなかったため、交流に関しては、希薄になった。</li> </ul> <p><b>(2) 活動プログラムの企画、充実に関する事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの広場で実施できなかったのが残念であった。</li> <li>・密を避けて、息があまり上がらない活動を考えていたが、今年度の実施は難しかった。距離を競うボール投げや的をねらうキックターゲット等順番に並んで、一人ずつ挑戦するようなプログラム等、感染対策を講じたうえで、実施を前向きに検討していきたい。</li> <li>・紙飛行機や折り紙、ぬりえなど、道具等の共有を避け各自与えられた材料での制作では、楽しく活動することができた。</li> </ul> <p><b>(3) 安全管理に関する事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材による見守り活動であることや異学年交流の場であることから、徹底して以下の感染防止対策、トラブル等の防止対策を講じた。</li> <li>・手洗い、マスク着用、密の回避を呼びかけるとともにポスター掲示で意識づけた。</li> <li>・受付・終了時刻記入時に、フレンドが声掛けをして児童の健康観察(表情・声・顔色な</li> </ul>	太陽の広場 ブロック アドバイザー

ど)を行った。

- ・出入口ドアの解放、換気扇の使用、1時間毎に窓を開けるなど換気に注意した。
- ・学習(宿題等)は、席を離し、同じ方向を向いて、静かに行った。
- ・受付時に使い捨てえんぴつを使用する等、道具の共有を避けた。
- ・災害時に備え、書面により合同避難訓練(地震・火災)内容を確認し、共通理解を図った。
- ・活動においては児童の動きから予測されるけがやトラブルを防ぐため、早めの声かけや指導を心がけた。
- ・留守家庭育成室指導員とフレンドが分担、連携して活動を見守り、安全の確保を行った。
- ・けがやけんかといったトラブルについては、発生時のフレンドの対応(学校や青少年室との連携)を確認しておく必要がある。

#### (4) ボランティア等の地域の協力者の人材確保に関する事項

- ・活動停止期間の長期化と再開の目途が立たなかったことから、フレンドの日程調整が難しくなった。
- ・フレンドが体調不良や濃厚接触者となり活動できない時もあったが、地域諸団体に呼びかけていただくことで新たなフレンドが見つかった。
- ・他の会議や学校等多く場で本事業の趣旨を広報し、フレンドさんを募集していくことが重要である。また、コロナ禍で、フレンド自身が年齢や家族環境などで感染への不安を抱えることもあるので、様々な年齢層で人材を充実させることが求められるが、コロナ禍で集まりが開催されず、なかなか厳しい。

#### (5) 広報活動に関する事項

- ・青少年室の文書(プリント)による周知。
- ・学校発信のメール(ミマモルメ)や学校ホームページによる周知。
- ・学校だよりや文書(プリント)による周知。
- ・地域だよりへの掲載による周知。
- ・教室等に掲示物(ポスター)で周知。
- ・コロナの流行が続き、週複数回実施校においては登録児童が少ない学校もあることから、活動の実感や本事業に対する興味が薄れてしまっていることが懸念される。全校集会の機会が減少している中では難しいが、本事業について、児童に直接アナウンスする場があればありがたいと感じる。実際、BA が1年生の教室に出向き、広報したことで登録児童が増えた事例もある。
- ・感染防止対策の広報に関しては、広場に来る子供たちが素直に声かけに応じて、3密回避や手洗いの徹底ができた。

#### (6) こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の新・放課後子ども総合プランで連携実施後の検証・評価に関する事項

- ・地域の子供たちの健全育成と留守家庭児童育成とのそれぞれの主旨の異なりを踏まえた上での連携であるべきだと思う。
- ・コロナ禍においては学校教育活動での他学級や異学年交流が減少しているので、放課後の活動で留守家庭児童育成室や他学級、異学年の児童と交流できる機会があるのは有益である。
- ・身体活動の減少による体力低下が指摘されており、遊びを通して体を動かすことは児童の健康増進に役立っている。

子どもプラザ事業には、世代間交流の有効な場であるので、留守家庭児童育成室の在籍児童も臨機に「太陽の広場」に参加し、地域の人々とのふれあいの機会からより豊かな人間性を養うことは意義のあることだと思う。

#### (7) その他新・放課後子ども総合プランの推進に関する事項

- ・子供が「自らの将来を切り拓いていく」ためには、自己肯定感、人や社会と関わる力、生活習慣、学習習慣の取得が不可欠であるが、コロナ禍においては、学校教育活動の中でこれらの取得機会が減少してきている。また、子供たちが安心して遊べる場所も減っていることから、自由な発想に基づく活動を通して機会の充実を図るとともにこどもプラ

	<p>ザ事業の継続発展に努めることが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の様々な活動制限により、今までに築き上げてきた両事業の連携の成果が後退しないよう、長期的なスパンで新たな生活様式に応じた活動内容を模索していく必要性を感じている。</li> </ul> <p><b>2 その他のアンケート内容以外で、子供たちの居場所づくりについての情報提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県では「こども応援ネットワーク埼玉」を掲げ、学校・地域・留守家庭児童育成室の活動にとどまらず、体験活動の機会提供・学習支援の機会提供・企業や事業所によるボランティア活動・親子へのサポート(就業・子育て・住まい)・場所やスペースの提供・広報 PR 活動など、グローバルな視点で子供支援を目指している。</li> <li>・こどもプラザ事業は、学校を拠点として太陽の広場と留守家庭児童育成室の連携、協力の充実をめざしており、日々、けがの対応や忘れ物の処理などとてもお世話になっている。さらに太陽の広場や留守家庭児童育成室の活動を知っていただく機会があればと考えます。</li> <li>・全市的な集まり(フレンド交流会や研修会等)が開催できなかったため、子供に関わるスタッフに、情報交換や学びの場がなく残念であった。</li> </ul>	
9	<p><b>(1)こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の具体的な連携に関する事項・活動での連携</b></p> <p>太陽の広場では運動場で一緒にドッジボールなどを楽しむだけではなく、活動プログラムを一緒に行ったり、年に一度開催される留守家庭児童育成室主催の学童祭りなどに参加するなどの活動があったが、コロナ禍で2年間は、とくにできていない。今年度、太広活動時間が短縮されたことにより、運動場使用の時間が重なることはなかったが、打合せ不足で活動が重なってしまったことがあり、事前の調整が必要であると改めて感じた。</p> <p><b>(2)活動プログラムの企画、充実に関する事項</b></p> <p>活動プログラムは実施できなかったのが残念である。</p> <p><b>(3)安全管理に関する事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策のため、活動の前後に、ハンドソープを手の上にワンプッシュすることで手洗いを促すようにした。</li> <li>・学習の時も席数を減らし、同じ方向を向いて座らせ、希望者が多い時は前後半に時間を区切って学習させた。</li> <li>・トラブルは、起こった時に、なるべくいねいに話をきいて対応することを心がけている。</li> </ul> <p><b>(4)ボランティア等の地域の協力者の人材確保に関する事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアを見つけることは難しいが、積極的に見に来てもらえる機会をつくり興味を持ってもらえるようにしたいと思う。</li> <li>・利点としては現役の保護者が多く、その方が他の方に声をかけてくれるので、興味を持ってもらいやすい。</li> </ul> <p><b>(6)こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の新・放課後子ども総合プランで連携実施後の検証・評価に関する事項</b></p> <p>月1回、学校、フレンド、留守家庭児童育成室、青少年室の4者で会議を行っているが、太陽の広場の活動時、運動場においても留守家庭児童育成室とのコミュニケーションの機会を増やしていきたいと思う。</p> <p><b>(7)その他新・放課後子ども総合プランの推進に関する事項</b></p> <p>子供たちが放課後、安心して遊べる場を提供する事は、大切だと思っている。ただ、この2年のコロナ禍で太広の中止が続き毎回のように参加していた子供が参加しなくなるなど、子供たちの生活スタイルが変化しているのを感じる。その変化が子供にどのような影響を与えるかが気になる場所である。</p>	太陽の広場 フレンド
10	<p><b>(1)こどもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の具体的な連携に関する事項・活動での連携</b></p> <p>今年度の活動は、奇数学年・偶数学年に分け、屋外活動のみ実施した。受付方法としては自宅で記入済みの参加証を回収する形をとったので、受付時の密を</p>	太陽の広場 フレンド



避けることができた。

天候不良の判断が遅くなり、中止の連絡が直前になってしまったことがあったので、今後は中止決定の時刻を設定し、早めに判断し連絡できるようにしたい。

## (2)活動プログラムの企画、充実に関する事項

実施していない。

## (3)安全管理に関する事項

コロナ禍で子供たちが体を動かす機会が減り、けがが発生しやすいとのことで、危険な遊びへの注意喚起・声かけを増やした。

手洗いの声かけを意識した。

## (4)ボランティア等の地域の協力者の人材確保に関する事項

結果的に活動回数がとても少なく、今年度の人員確保に関しては困難に感じることはなかった。

ただ、活動や活動のお手伝いをきっかけに、今後のフレンド増員をすすめたかったので、次年度の大幅な人員確保を見込めないのが残念である。今後このようにコロナの影響で活動回数が少ない場合、その年度は問題ないが、将来的に安定した人員確保が困難になると思われるので、工夫が必要である。

## (5)広報活動に関する事項

学期に一度、「たいひろ通信」を発行し、開催日程などに加えて感染対策などの周知を行うとともに学校と協力して、メールでの案内も行った。

## (6)子どもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の新・放課後子ども総合プランで連携実施後の検証・評価に関する事項

今年度は、参加者人数を制限するために分散開催になったので、留守家庭児童育成室の子供たちと触れ合うことはなかったが、会議などでは、互いの活動の内容確認などを行った。コロナ禍が少しでも落ちつき、子供たちの交流を通して両事業がより深く連携できればと思う。

## (7)その他新・放課後子ども総合プランの推進に関する事項

本来、放課後は子供たちが学年の枠を超えて子供たち同士で遊びを通して、コミュニケーション能力や、協調性を養う場であると考え。昔は自然に「放課後」という自由な空間が存在したが、今は時代の変化とともに自然に…という状況が難しいと感じている。昨今はコロナの影響もあり、より「放課後」が子供たちにとって希薄な存在になっているのではないかと感じる。子供たちが自然に集まり、そこが居場所になる…という「放課後」であればいいと感じるとともに、そういう空間を提供できるよう大人や地域が協力できればと思う。

## 2 その他のアンケート内容以外で、子供たちの居場所づくりについて情報提供していただける内容があればお書きください。

学校が終わった後の子供たちの生活スタイルが、個々様々で習い事も多いと感じる。それでも、今年度の太陽の広場では参加者数も増え、忙しい中でも子供たちがとても積極的に参加してくれていると感じた。1年間を通しての活動ができなかったので参加者の増減について明確ではないが、保護者も含め、太陽の広場の活動への期待が感じられた。

コロナ禍も2年目を迎え、1年目の経験を踏まえ活動回数が増えると思っていたが、今年のウィルスの特性により結果的に1年目よりも活動回数が少なくなってしまう、未知のウィルスの感染拡大の中活動していくことの難しさを再認識した。来年度は、これまでの経験が生かされ1回でも多く活動ができればと思う。

感染が拡大する中での活動は、学校生活や教育活動と足並みをそろえることも重要なので、学校との連携など日頃からのコミュニケーションが大事だと感じており、電話だけでなくメールも多用し連絡をとっているが、学校が太陽の広場の活動にとっても協力的なので、スムーズな連携ができありがたく感じている。

今後も子供たち・学校・見守るフレンドが幸せな活動でありたいと考える。

11	<p><b>(1)子どもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の具体的な連携に関する事項・活動での連携</b></p> <p>年に数回開催されている留守家庭児童育成室と学校、太陽の広場、青少年室の4者での連絡会議でそれぞれの活動の情報交換を行う。</p> <p>留守家庭児童育成室が行う行事については、事前に実施内容や運動場の使い方等について、当日、児童の動線が交差せぬよう相談した上で、開始前に活動場所をコーン等でわかりやすく分ける等の対応をした。</p> <p><b>(2)活動プログラムの企画、充実に関する事項</b></p> <p>2年間、活動プログラムの実施なく「特別なお楽しみ」の機会を設けられなかったのは残念だが、子供たちは「今は走り回れるだけで楽しい」と一人ひとりが自由に放課後の活動を楽しんでいた。特別な活動ではないが、受付前でフレンドとの会話を楽しむ児童が多かった。</p> <p><b>(3)安全管理に関する事項</b></p> <p>開催時の詳しい注意事項や「お約束」を記載した手紙を全児童に配付し、各家庭その内容の確認をお願いした。事前に周知できない突然の中止などの連絡は学校よりメール配信していただき、保護者の理解をいただいた。</p> <p>活動現場では、密を避け安全に活動できるよう、ポスターで児童の動線を一方通行に誘導したり、手洗いや受付の順番をポスターで表記するなど、児童自らが認識し行動できるようにした。</p> <p><b>(4)ボランティア等の地域の協力者の人材確保に関する事項</b></p> <p>長期にわたりフレンド活動を実践しておられる方々が、年々高齢化していく現状がある。地域教育協議会の会議等で広く地域に呼びかけ、今期、2名の新規登録があった。コロナ禍のため、保護者のフレンド登録はなかった。</p> <p><b>(5)広報活動に関する事項</b></p> <p>年に3回、学期の初めに、太陽の広場の説明、実施日を記した手紙を全児童に配付し、毎月の学校だよりも、開催日を記載いただいている。</p> <p>地域教育協議会発行の広報紙にも、太陽の広場の記事を掲載している。</p> <p><b>(6)子どもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の新・放課後子ども総合プランで連携実施後の検証・評価に関する事項</b></p> <p>学校、フレンド、留守家庭児童育成室、青少年室の4者において環境や条件等は異なるが、対応の違いを理解し、互いに子供たちへの対応などを情報交換すること、また、非常時(災害・防犯等)に「子供を守る」ことについて、「連携して動ける」体制を構築することが望ましいと思う。</p> <p><b>(7)その他新・放課後子ども総合プランの推進に関する事項</b></p> <p>子供の居場所について考える場に、子供の考え、意見は反映されているのだろうか。活動プログラム等を計画する際に 事前に児童の意見を聞きとる仕組みを作りたい。発達・成長段階で、子供が望む環境も違い、意見もいろいろ出てきそうである。自分たちの居場所について自らが考え、大人に発信できる仕組みがあること、そこに地域のおじちゃん・おばちゃんと一緒に考え関わった事は貴重な体験になると思う。そして、彼らが、高校生・大学生に成長した時 小学生の活動の支援者として関わってくれるようになることを期待したい。</p>	地域教育協議会
12	<p><b>(1)子どもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の具体的な連携に関する事項・活動での連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山一は令和3年度の開催はなかった。</li> <li>・佐竹台では、学年別(1・3・4年と2・5・6年)に分かれ、開催された。</li> <li>・太陽の広場が開催される時間に留守家庭児童育成室の子供たちは外へ出て遊ばず、時間をずらす形をとったので太陽の広場の児童と遊ぶ機会がなくなり、子供たちは寂しく感じることもあったと思う。また、指導員としても交流を持つ機会が少なくなったのは残念であったが、密をさけることができた。</li> <li>・感染症対策は、育成室での対応と太陽の広場での対応を事前に調整して行うことで、子供たちにも周知することができた。</li> </ul>	留守家庭児童育成室

・育成室で特徴的な子供の状況を共有することで、太陽の広場での子供の対応を共有することができた。

## (2)活動プログラムの企画、充実に関する事項

・実施がなかった。

## (3)安全管理に関する事項

・佐竹台は、学校、フレンド、留守家庭児童育成室、青少年室の4者による連絡会議が月に1回行われており、学校の危険箇所やフレンドの悩みや課題等の共有を行った。危険箇所については学校の速やかな対応で安全対策をとることができた。

・育成室での子供のけがの状況を共有することで、太陽の広場で注意することを共有できた。

## (6)子どもプラザ事業及び留守家庭児童育成室事業の新・放課後子ども総合プランで連携実施後の検証・評価に関する事項

・山一での太広を経験していないので、以前の東山田での経験からの意見になるが、東山田では、コロナ前は太陽の広場が毎週水曜に実施されており、学校の友だちとも交流できる日として楽しみに参加していた。高学年の参加も多くサッカー等大きく運動場を使って遊んでいたのが、低学年中心の200名近い学童の子供たちの安全面を守るには細心の注意を要した。学期に一度の連絡会議では、気を付けたい場面などを共有し、共に安全面を守る視点が持てるよう努めたが、太陽の広場のフレンドは担当が日によって変わるので情報共有が難しい面も感じられた。

・コロナ以前、佐竹台では太陽の広場を週1回(水曜日)開催されていた。学校の友達や卒業したOBと一緒に運動場で放課後に遊ぶことを子供たちもとても楽しみにしていた。連携に関しては、4者による連絡会議を持っていたが、学校児童とのトラブル時には、指導員として、対応の線引きが、難しかった。例えば、危険箇所について会議で共有はしているが、実際に現場では学校のルールと育成室のルール・太陽の広場のルールなどに差異が生じることがあり、すり合わせていくことが難しいと感じた。

・少なくとも毎月、定期的に会議をすることで、子どもの対応を共有できる。

・感染症対策は必要であるが、子どもの状況を考えるとできる限り普段通りの対応を心がけている。

## (7)その他 新・放課後子ども総合プランの推進に関する事項

・昨今の地域の状況として、公園はあるがボール遊びが禁止であったり、不審者等の情報もある。太陽の広場というのは、子供たちだけでなく保護者も安心して遊べる放課後の場所として、どの子にとっても、居場所となっていると思う。ただ、学童保育については、生活の場だけでなく、就労保障の場でもあるので、その生活に影響を及ぼさないよう太陽の広場との共存を推し量っていくのがこれからの課題である。

・地域によって違いはあると思うが、太陽の広場への高学年児童の参加が少ないと思われる。留守家庭児童育成室も4年生までなので、6年生まで延長を求める声もある。

・高学年の子供たちの放課後の居場所については課題として取り組む必要がある。

## 2 その他のアンケート内容以外で、子ども達の居場所づくりについて情報提供していただけの内容があればお書きください。

最近では、コロナ禍もあり、児童館の利用者の多くが就学前の子供たちになっているように思う。小学生の居場所づくりについて、児童館、図書館、公園等、地域の子供の居場所となりうる施設を含めて役割を考えていくことが必要である。